

二〇一五年(平成二十七年)度 巣鴨中学校 第Ⅰ期 国語 入学試験問題

(問題用紙三枚のうちの一枚目)

受験番号

※ 解答にあたっては、句読点・かぎカッコ等も一字分として数えること。なお【二】の文章は、作問の都合上、本文の一部を省略したところがあります。

【一】次の各文の——部のカタカナをそれぞれ漢字に改めなさい。

- 1 川にソッて桜の木を植える。
- 2 新しい委員会をモウける。
- 3 時間をゲンシユすることが大切だ。
- 4 動詞からハセイしてできた名詞。
- 5 障害物を取りノゾく。
- 6 テイチヨウにお礼を述べる。
- 7 罪をコクハクする。
- 8 ゴクカンの地で仕事をする。
- 9 台風にソナえて早めに下校する。
- 10 つらい労働をクエキという。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本発の文化が世界のさまざまな場所に広がり、多くの人々に楽しまれている。

ポピュラーカルチャー(注・一般大衆が広く好む文化。ポップカルチャーともいう)では、ヨーロッパやアメリカの各地でアニメ・マンガフェスティバルなどのイベントが開かれ、多くのファンが集まっている。いっぽう、文学の世界では、村上春樹の作品は四〇カ国以上で翻訳され、いまや世界的なベストセラー作家になっている。

伝統文化も①負けてはいない。世界各地で歌舞伎の公演や相撲の巡業が行われると大人気となる。また、柔道や合気道などの武道や、日本食も、世界のさまざまな場所で日常生活にX②ついている。

そのような、海外で日本発の文化が受け入れられている様子は、最近では国内でもマスメディアやインターネットを通して広く知られるようになった。海外で日本文化が評価されているというニュースは、日本に住む若い世代が日本文化を見直すきっかけにもなっているという。

それを受けて、最近、日本でも、「日本文化を世界に発信したい」という気運が高まりつつある。

まだ海外で知られていない日本文化の本当のよさを伝えたい。海外の新聞やテレビで伝えられている日本のイメージを見て、実際の日本の姿を伝えたい……。そのような思いから、「もっと日本文化を発信したい」と、情熱をもって取り組む人も増えてきている。「日本文化の発信」に関するプロジェクトもよく見かけるようになった。

しかし、アメリカに長年住んでいて、また、最近ドイツに一年滞在して、そのような日本からの「発信」を外から見ていると、③その情熱や努力にもかかわらず、期待したほどに成果があがっていないのではないかと、と感じることがしばしばあった。日本では「日本文化を海外に発信した成果」と大々的にメディアで伝えられていることが、現地の視点から見たらそれほどインパクト(注・衝撃)がなかった、ということを開近に見ることもあった。

そのいっぽうで、日本では知られていなくても現地で受け入れられている文化紹介のプログラムに出会うことも、少なからずあった。たとえば、ドイツに住んでいたときに、日本文化のイベントで人気があったのは、日本人の落語家によるドイツ語の落語公演や、日本のサイレント映画(注・音響、セリフなどが収録されていない昔の映画)を活動弁士の説明で見せる上映会などだった。このような企画が海外で行われているということは、日本ではあまり知られていないのではないだろうか。

★振り返ってみると、世界の国々の日常生活のなかに日本発の文化が浸透するようになったのはそれほど古いことではない。

日本文学が「文学らしい」英語に翻訳されて英語圏の読者に広く読まれるようになってから、せいぜい一〇〇年程度しか経っていない。また、日本の哲学や、仏教などの宗教にしても、以前は「神秘的」とはいわれても、欧米の哲学や宗教からはワンランク下だと思われていた。しかし、そのような偏見は、もはやなくなりつつある。

そして、私の教えている大学にも、アメリカやヨーロッパだけではなく、台湾や中国、シンガポールなどのアジアから、中東から、そして南米から、日本文学や日本文化を学びたいと学生が集まってくる。その多くは、小さい頃から日本のアニメやドラマなどのポップカルチャーに触れたり、武道の道場に通ったりして、日本発の文化に親しんで育ったのだという。★

A、「発信」の方向がずれている、と感じてしまうのはどんなときだろうか。

この点について思うのは、日本の側の「発信したい気持ち」と、世界の受け手の「知りたい気持ち」にミスマッチ(注・つりあわないこと)があるのではないかと、いうことだ。

送り手の側の日本人々が、「自分たちの発信したいこと」にこだわりの、日本の事情を海外にまで持ち込み、日本のやりかたでものごとを進める。その結果、受け手の知りたいこと、見たいことに応えることができなかつたり、受け手の側のしくみにうまく乗らなかつたりして、結果として伝わらないことがある。

いっぽうで、受け手のニーズ(注・要求)をよく知ったうえで、現地の人々が受け入れやすいように考えられたプロジェクトはよい結果が出る。

ほんの少し発信の方向を変えれば、送り手と受け手のミスマッチは軽減され、世界の人々が日本発の文化や芸術の素晴らしさに触れる機会ももっと増えるだろう。

ただし、そのためには、受け手の側から日本文化がどう見えているか、また、日本文化が現地でのように人々に届けられているのか、さらに、受け手の側の専門家や読者はどのような関心を持っているか、などのことを、もっと知る必要があるのではないだろうか。

しかし、それだけでなく、グローバル化(注・これまで存在した国家などの境界を超え、世界が一つの共同体となっていく過程)が進み、世界のさまざまな文化が互いに浸透し、影響しあうなかで、「正しい」日本文化を発信する④という発想じたいを、③大きな視野から見直すことも、必要なのではないかと。

もはや、④日本人が「正しい」と思っている文化のありかたそのままを海外に発信するだけでは十分ではないのではないかと。

B、日本で生まれ、世界中で親しまれているもののひとつに、寿司がある。

ヨーロッパやアメリカでは、ヘルシー志向やアジア文化への関心もあり「SUSHI」は大人気だ。特に最近では高級なスシ・バーだけではなく、回転寿司や若者向けのテイクアウトのスシが人気のようだ。パリの街では、いたるところにSUSHIの看板を目にしたし、イギリスのヒースロー空港のスシ・レストランは旅行者客でにぎわっていた。また、ドイツでは、スシ専門店だけではなく、中華料理やタイ料理のレストランの一角がスシ・コーナーとなっているレストランも少なくなく、アジア料理としてのスシの人気ぶりがうかがえた。

C、その味は日本人の味覚に合うものばかりではない。ドイツの

ライプツイヒに一年ほど住んでいたとき、市街地にデイクアウトのスシ専門店があった。ランチタイムに行列ができていたので、試しに食べてみることにしたが、日本では見られないネタの組み合わせのものも多く、私の好みには合わなかった。

このように世界中でさまざまなスシが生まれるようになって、二〇〇六年、農林水産省は、正統な日本料理を提供する海外のレストランを認証する制度を開始すると発表して話題となった。「正しい寿司の味」を世界に伝えたいという目的で立ち上げられた制度だったが、海外のメディアは、日本人は自分たちの食文化を海外に押しつけるな、という論調で批判した。ワシントン・ポスト紙は「氣をつける、スシポリスがやってくる」という表現を使い、「スシポリス」という言葉は日本国内のメディアでも話題になった。こうした反発を受けて、日本食の認証制度はとりやめとなった。

「正統な寿司」の味を知っている日本人が、世界各地のスシの味を、日本人の味覚に合うかどうかで判断するのは自然なことかもしれない。そのいっぽうで、世界に「正統な寿司」の味を押しつけることが、外国の寿司屋、とくに日本人でないスシシェフの反発を呼ぶことも理解できるだろう。

外国のスシは、日本人の味覚に合わなくても、現地の人々の味覚に合わせることで寿司の世界的な普及に貢献しているという面もある。

たとえば、アメリカで生まれたカリフォルニアロールは、スシを、一部の人しか知らないエスニック料理から世界中で誰でも知っているメジャーな料理にした。日本でも最初は違和感をもつ人が多かったようだが、現在では逆輸入されてすっかり定着した。その意味では、^⑤世界各地のスシを頭ごなしに否定することもできないはずだ。

〈中略〉

このような例は、日本発の文化が世界でどのように知られ、理解されているかを考えるうえで、大きなヒントになるのではないだろうか。

グローバル化が進み、国境を越えた文化の流れがますます増えることにより、日本発の文化を楽しむ人の多くは日本語を話さず、日本に行ったこともない人が大多数というのが普通になっていくだろう。外国人が日本の文化を知るには、まず日本語を学び、しばらく日本に住むのが普通、というのは、もう、過去のことになりつつある。

日本文化を日本の外で楽しみ、日本文学を日本語以外で、日本の外で読む、そんな時代が始まりつつあるのだ。このような時代に、世界の読者の側に立つて、文化を見て語る文化論が必要とされている。

(河野至恩『世界の読者に伝えるということ』による)

問1 部①「負けてはいない」の「負ける」と同じ意味で使われているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 次の試合は絶対に負けないようにしたい。
イ ぼくは国語の力ではクラスの誰にも負けない。
ウ 誘惑に負けない心。
エ カミソリに負けない肌。

問2 空らん X に入る適当な漢字一字を答えなさい。

問3 部②「その情熱や努力にもかかわらず、期待したほどに成果があがっていないのではないか」について次の問いに答えなさい。

- (1) 「期待したほどに」とありますが、日本文化を発信しようとする人々にはどのような期待があったのですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 海外で知られていない日本の日本文化のよさは、紹介すれば広く受け入れられるだろう。

イ 発信にあたって情熱と努力さえあれば、日本文化は海外でもっと普及していくだろう。

ウ 海外で日本文化を発信すれば、メディアで評価されるような成果をあげられるだろう。

エ 日本文化を世界に発信したいという気運に乗れば、自分たちの試みもうまくいくだろう。

- (2) 「成果があがっていないのではないか」とありますが、日本文化を発信する人々のどのような点に問題があったのですか。解答らんの「日本文化を発信する人々が、」に続くかたちで五十字以内で答えなさい。

問4 「★振り返ってみると」～「育ったのだという。★」の範囲で筆者が言おうとしていることの説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本文化は他国の文化よりも神秘的なので、海外の学生がずすんで日本文化を勉強していること。

イ 海外では実は日本文化がかなり浸透していて、外国のさまざまな人々が日本文化への興味や関心を抱いていること。

ウ 小さい頃から日本文化に親しんでいる外国人にとって、日本文化は完全に生活の一部になっていること。

エ 海外に日本文化が浸透するまでは、日本文化は欧米文化より遅れているとみなされていたこと。

問5 空らん A C に入る適当な語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ あるいは ウ では エ たとえば

問6 部③「大きな視野から見直す」とはどうすることですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本文化が海外の人々にどのように受け入れられていくのかということも考えること。

イ 日本文化を海外にそのまま発信するだけでは不十分であるということを前提にすること。

ウ 紹介のしかたを工夫しないと日本文化が海外で間違った形で浸透することもあると覚悟すること。

エ 日本文化に対して海外の人々がどのような関心を持っているかを十分に調べてから発信すること。

問7 部④「日本人が「正しい」と思っている文化のありかたそのままを海外に発信する」という発想から作られたものの具体例としてどのようなものがあげられていますか。本文中から三十字以内で探し、はじめと終わりの三字を答えなさい。

問8 部⑤「世界各地のスシを頭ごなしに否定することもできない」理由を五十字以内で答えなさい。

問9 本文の内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海外の人々には、アニメなどのポピュラーカルチャーよりも、伝統文化を好む傾向がある。

イ 海外で日本では見られないスシが作られているのは、日本文化が十分に浸透していないからである。

ウ 欧米ではスシはアジア料理の一つと考えられており、日本発のものとはみなされていない。

エ 日本発の文化を楽しむ人の多くは、日本語を話さず日本に行ったこともないということが、普通になっていく。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は、餅もちというものが、あまり好きではない。それを言うと「そんなヤツは許せん」と怒おこられたことがある。餅というのは、日本人なら好きで当然の食べ物なのか、とそのとき思った。

子供の頃ころ、年末になると祖父母の家で餅をつくのだが、その量は半端はんぱではなかった。まず、つきたてのを大根おろしで食べて、^①家に帰るやいなや、やや固かたくなった小豆餡あずまあん入りのを焼いて食べる。そこから我が家の主食は餅になる。雑煮ぞうじはもちろん、正月が終わっても、トースト代わりに、きな粉餅やら磯辺巻いそべまききやらが毎朝出てくる。学校から帰ると、他に食べるものが見つかるわけもなく、餅をストーブで焼いて、砂糖をつけつけ食べた。そろそろカビてくるのではという頃になると、大きな鉢はちに水を張り、そこへ残った丸餅や砕くだいたお鏡を入れて保存し、一カ月ほどかけて家族で食べ尽くした。

私には、なぜそうまでして餅を食べ続けなければならないのか、よくわからなかった。が、父も母も、^②そうでなければ正月をした気になれなかったようだった。

おせち料理も、子供心に^③X。大量に作られたお煮しめは、いつまでも残っていて、何度も火を入れなおし、これもやつぱり食べ切るまで、見せしめのように、いつまでも食卓しょくたくに出てきた。

鯛たいの塩焼きは特別で、父が生きている間は絶対に欠かせないものだった。一番おいしいはずの焼きたては食べさせてもらえず、正月中は^④Y飾かざってあって、三日目あたりに冷えてカチンコチンになったのを、家族みんなで分けて食べた。^⑤父は、一番いい身子供たちに「ほら、うまいぞお」と誇ほこらしげに配り、自分は、ここがおいしいんだとツウぶつて目玉を食べた。さらに残った骨は、次の日、味噌焼みそやききにして、家族みんなで文字通り骨までしゃぶった。

昆布こんぶは喜ぶだとか、田作りは豊作だとか、黒豆はマメに暮らせるようにとか、おせち料理のほとんどは駄ジャレだ。なぜ、そんな駄ジャレを喜ばねばならないのか、子供の私には、全くもって謎だった。私はひそかに、お正月は不条理(注・道理に合わないこと)に満ちた行事だと、ずっと思っていた。

が、こうやって、昔、家族で過ごした正月を思い出しながら書いてみると、^⑥子供の頃の正月がとても懐かしい。まん丸ではない、ひらべったくてひしゃげた、あの食べ飽あへきた餅ですら懐かしい。あのときの私には、家族が飢えずに生きてゆく大変さが、わかっていなかった。子供が三人になったとき、これからは、キャラメルでも何でも三個ずつ買わねばならないのかと、母は暗い気持ちになったそう。父はサラリーマンで社宅暮らしだったが、自分で稼かせいで食べてゆく身になると、^⑦母の不安がよくわかる。

幸せであり続けることは、とても難しい。それは、今も昔も同じだと思う。ただ、昔の人は、そのことを身に試あまみてわかっていたのだ。だから、無事に年を越こせたことに誇りをもっただろう。晴れがましく鯛を配っていた父がそうだったように。^⑧おせち料理の駄ジャレもそうだろう。よいことばかりであってほしいという、切なる願いが最初にあったのだと思う。

いつの間にか私たちは「幸せになる」ということを、さほど真剣しんけんに考えなくなってしまった。思わなくても、大抵たいていの物は手に入るようになったからだ。今、何が自分の幸せか、明確に答えられる人は少ないだろう。元旦がんたん、起きると新しい下着が枕元まくらもとに置いてあった。電車の中の人々は、みんなよそゆきだった。街は、どこもきれいに掃き清きよめられていた。私たちは、世界が昨日とは違ったものになっていると感じ、新しい匂においを胸いっぱい吸い込んだ。

子供の頃の正月は、不条理に満ちていたが、今思うと、^⑨Zものだった。

(木皿きざら 泉いずみ「正月を食べる」による)

問1 ―― 部①「家に帰るやいなや」の「やいなや」の部分で「家に帰る」に続けてわかりやすく五字以内で言い換えなさい。

問2 ―― 部②「そうでなければ」の「そう」が指す内容を「なければ」に続くように十五字以内で答えなさい。

問3 空らん X に入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 不思議な食べ物に思えた

イ おいしいとは思えなかった

ウ 少ししか食べられないと思った

エ 正月にふさわしいと思わなかった

問4 空らん Y に入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア おざなりに イ ものほしげに

ウ その場のぎに エ これみよがしに

問5 ―― 部③「父は……目玉を食べた」で描かれている父の様子の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 子供たちと一緒に新年を迎えられたことへの家長としての喜び。

イ 冷めた料理で正月の気分を子供たちと楽しもうとするおかしさ。

ウ 鯛の一番うまい部分を子供たちに食べさせようとする思いやり。

エ けつして裕福ゆうふくではないのに子供たちの前では見栄みえを張る頑固がんこさ。

問6 ―― 部④「子供の頃の正月がとても懐かしい」について次の問いに答えなさい。

(1) 「懐かしい」と思う理由の一つに、筆者が大人になって昔の大人に共感できるようになり、昔のことに心ひかれていたことがあげられます。現在の筆者は昔の大人と同じく、どのような立場にあるのですか。本文中から十五字以内で探し、ぬき出して答えなさい。

(2) 「懐かしい」と思う理由の一つに、現代の状況が昔と違ってしまい、そのために昔のことに心ひかれていたことがあげられます。現代がどのような状況にあるのかを四十字以内で答えなさい。

問7 ―― 部⑤「母の不安」は何を思っているものでしたか。本文中から十五字以内で探し、ぬき出して答えなさい。

問8 ―― 部⑥「おせち料理の駄ジャレもそうだろう」とありますが、おせち料理をはじめとする正月のさまざまな事柄ことづからについて説明した次の文章の空らんに入る言葉をそれぞれ本文中から探し、ぬき出して答えなさい。ただし、Aは十字以内、Bは五字以内、Cは二十字以内とします。

・昔はまず A に対する B があり、それがあつたらこそ人々は C ことだろう。正月には、人々のそのような思いがさまざまな形で現れたのだと、筆者は考えている。

問9 空らん Z に入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ゆとりのある イ 折り目正しい

ウ 気持ちのよい エ 謎は少ない

6	1
7	2
8	3
9	4
10	5

問 2

(1)

日本文化を発信する人々が、

[illegible]

A

B

C

問
6

© 2000 Blackwell Science Ltd *Journal of Internal Medicine* 247: 361–367

問
7

Year	1997	1998	1999	2000	2001
Value	100	100	100	100	100

 $\sim$

Country	Language	Year	Genre	Director
France	French	1965	Drama	Jean-Luc Godard
Italy	Italian	1966	Drama	Pier Paolo Pasolini
Spain	Spanish	1967	Drama	Carlos Saura
Germany	German	1968	Drama	Volker Schlöndorff
Sweden	Swedish	1969	Drama	Ingmar Bergman

[illegible]

家に帰る

なければ

問
4

100

問
5

(1) _____

[illegible][illegible][illegible]

B

[illegible][illegible]

点線より下のらんには何も書かないこと

I	H	G	F	E	D	C	B	A